

現在、中国は高齢化社会に突入しつつあり、高齢者の介護が大きな課題になってきている。高齢者の介護は、主として、自分自身の配偶者や子どもに依存しているのが現状である。これまで、数多くの先行研究によって、高齢者に対する家族介護が、介護者自身の健康状態に大きく影響することが示されてきた。そこで、本稿では、高齢者介護が、介護者の心理的・精神的健康状態及び身体的健康状態にどのような影響を与えるのかについて検証を行った。本稿で用いるデータは、北京大学によって実施された「中国人の健康と高齢者追跡調査 (China Health and Retirement Longitudinal Study :CHARLS)」の 2011 年(wave1)と 2013 年(wave2)、2 年間のデータである。被説明変数を 2013 年における家族介護者の健康状態、説明変数については、1 期ラグをとって 2011 年の介護の有無、及び、個人属性 (年齢、性別、婚姻、就労、年取など) とし、約 7000 人を対象として分析を行った。心理的・精神的の健康の代理変数としてメンタルヘルスコアを、身体的健康の代理変数として慢性疾患の数をを用いた。内生性をコントロールするために、「親の健康状態」と「兄弟姉妹の人数」を操作変数としてモデルに投入し、2 段階最小二乗法による推定を行った。主な推定結果としては、第 1 に、高齢者介護をすることにより、家族介護者の心理的・精神的健康が悪化する傾向にあることがわかった。特に男性は女性より影響が強く、介護が男性のメンタルヘルスに統計学的有意なマイナスの影響を与えることがわかった。第 2 に、身体的健康については、高齢者介護が、家族介護者の慢性疾患の数を増加させる傾向にあることがわかった。その他、社会経済的属性 (家計年取、個人年取、就労、学歴など) と、家族介護者のメンタルヘルスコアや慢性疾患の数との間に、統計学的に有意な相関が確認された。